



看護職の働き方改革



病床数：350床 入院科：急性期一般入院基本科1 ■職員数：看護職 常勤397人、非常勤3人 准看護 常勤5人 ■看護職員平均年齢：34.1歳 ■看護職員離職率：14.7%（2021年度）
■今回の主眼テーマ：多様な勤務時間導入による時間外勤務（「前残業」）の低減

鹿児島県で開院80年超の歴史を有するいまきいれ総合病院。2021年1月、100床の回復期・地域包括ケア病床を持つ旧病院と、350床の急性期である同院の2つに分かれ、同院は、鹿児島市の中心部に移転し新たなスタートを切った。

移転にあたり、職員もそれぞれの病院に分かれた。看護部では人員体制が変わり、慣れない環境での勤務や、新人スタッフが増えたことから、勤務時間前のいわゆる「前残業」を含む時間外勤務の多さが目立ってきた。「新しい環境で不安を感じるスタッフが早い時間から出勤している状況があった」と藤山みどり看護副部長は振り返る。

そこで、時間外勤務を減らすため、同年9月、看護部全体で勤務時間を見直し、多様な勤務時間で働ける仕組みを導入。従来の8:30～17:30だった日勤の勤務時間を8:00～17:00、8:15～17:15、8:30～17:30の3パターンに変更し、勤務時間は病棟ごとに選択できるようにした。

「前残業」根絶へ勤務時間見直し

同院の手術室でも、「前残業」が日常化し、大きな問題となっていた。多様な勤務時間の導入に

あたり調査をすると、手術1件あたり30分程度の「前残業」が行われていることが分かった。また、新人スタッフが増加したことから、指導するスタッフも早く出勤していることが分かった。そこで、手術室では、基本的に全員が出勤時間を30分前倒しし、勤務時間を8時から変更した。

「前残業」をしていない経験豊富なスタッフからは、勤務時間が早くなっても何をすれば良いかわからないとの意見もあったため、業務内容を整理。手術後、勤務時間外に行っていた翌日の準備や術前訪問を、当日朝に行えるよう調整を行った。

時間外勤務が低減しケアも向上

導入前は「時間が早すぎる」などの心配の声もあったが、導入後は76%のスタッフが「良かった」と評価。勤務時間にも90%が満足していると回答した。業務の取り組みの変化について、アンケートも行った。「全員が同じ時間に出勤することで、これまで「前残業」中にマニュアルを見ながら一人で進んでいた手術の準備に、必ず指導を受けられるようになった」「手術の準備を当日の朝行えるようになり、残業の必要がなくなった」などの前向きな回答があった。

成果について尾室知子師長は「以前は朝一番から手術の患者さんには、当日の術前訪問ができていなかったが、8時開始になり必ず訪問できるようになった。患者さんの情報を共有できるようになり、ケアの質も上がっていると思う」と話す。また、指導が行き届くようになったことで、新人スタッフが難しい手術にも早期から対応できるようになり、手術室全体のスキルの底上げにつながった。



朝、指導を受けながら準備を行う新人スタッフ

さらに「前残業」が減ったことで勤務後の時間外勤務が増える懸念があったが、勤務時間が前倒しになり、手術前に時間ができたことで、翌日の手術準備で残業する必要はなくなった。加えて、看護補助者を活用し、手術準備のうち必要なものを集めるピッキング作業をリスト化したことも大きな業務効率化の要因になっていた。

今後について、近藤ひとみ看護部長は「夜勤時間の短縮にも取り組みたい。健康保持や仕事と生活の調和が図れ、看護職一人一人が看護の楽しさを感じられる職場でありたい」とさらなる飛躍に意欲を示した。

Q&A ナースのはたらく時間・相談窓口

相談

勤め先の診療所は、昼の2時間が中休みですが職場内で過ごしています。この2時間が無給となるのは仕方ないのでしょうか。

回答

労働基準法の「ノーワーク・ノーペイ」の原則により、中休みの2時間が完全に労働から離れることができる「休憩時間」であれば、賃金支払いは不要です。一方、この間も職場を離れることが認められず電話対応や受付業務を行っているのであれば、「休憩」を取ったとはいえ、取れなかった時間の賃金支払いが必要です。中休みは留守番電話を設定し、職員は外出可能とするなどの体制の見直しを提案してはいかがでしょうか。

ナースのはたらく時間・相談窓口

hataraku@nurse.or.jp FAX 050-3737-2820

ナースセンター をご活用ください



都道府県看護協会による無料職業紹介事業を行っています。詳細は左記の二次元コード（e ナースセンター）をご覧ください。